

山梨県若者海外留学体験人材育成事業（高校生コース）
留学結果報告書

令和 6年 7月18日

山梨県知事 殿

本人氏名 渡邊 清香

次のとおり留学の成果を報告します。

留学先国名	フランス共和国
学校等名	北杜市立甲陵高等学校
留学期間	令和 5年 8月20日 ~ 令和 6年 6月29日
<p>私は2023年8月から2024年6月までの約1年間、フランスに留学しました。なぜフランスを選んだかということ、元々少しフランス語を学んでいたのと、小さい頃フランスに三週間の短期留学をしたことから、いつか長期間フランスで生活したいと思ったからです。出発前は10ヶ月という期間がとても長いと思っていましたが、実際には時間が非常に早く過ぎました。</p> <p>私が留学を決めた理由は主に三つあります。一つ目は、国際的な感覚を身に付け、自分と異なる文化や考え方を持つ人と上手にコミュニケーションをとる能力を養いたかったからです。そして日本が海外からどう見られているのか知りたかったからです。二つ目は、海外の学校に通って授業を受けてみたかったからです。三つ目は、環境問題に興味があり、伝統的に人と自然の調和を考えてきたヨーロッパの人々の環境保全活動や環境保護に対する考え方を学びたかったからです。そこで、フランスの人が日本では少ない原子力発電についてどう考えているのか調べようと思いました。しかしこれは行った地域に原子力発電所がなかったため実現できませんでした。</p> <p>フランスについての時は、まだフランス語があまり話せず、文化の違いに戸惑うことも多くありました。例えば、日曜日は休む日なので全てのお店が閉まってしまうことです。元々日曜日は教会に行く日なのでみんな店を閉じてしまうそうです。日本では、日曜日でも開いている店が多いのでとても驚きました。学校は日本の高校とちがって、登下校の時間が決まっておらず、それぞれ授業があるときに学校に来ていました。昼は学校で給食が出るので、それを食べるか昼休みが長いときは家に帰って食べることもありました。積極的に声をかけてくる人が多く、すぐに友達をつくることができました。フランスはアニメやマンガの影響で日本に興味を持っている人が多く、よく日本の学校生活や文化について質問されました。教科書は年度の初めに学校から貸し出されて、終わりに返却するようになっていました。ただし、授業で教科書をつかう</p>	

ことはあまりなく、先生が用意したプリントなどを使って授業が進められました。また数学や英語など教科書がない教科もありました。私がいた学年は必修の授業がほとんどだったので、授業はクラス30人全員か、それを半分にした15人で受けていました。科目は国語や数学など日本と同じものと、英語で化学や歴史を学ぶ授業、またスペイン語の授業もありました。私が特に印象に残っている授業は、自分の将来を考える授業です。この授業では、まず自分が興味のある分野や職業について調べ、希望者は一週間職場体験に行きます。最後に学校で自分が体験してきたことについて発表しました。



学校の給食



散歩した公園



ピクニック



マクドナルドの看板

緑色なのは、環境に配慮していることをアピールするため

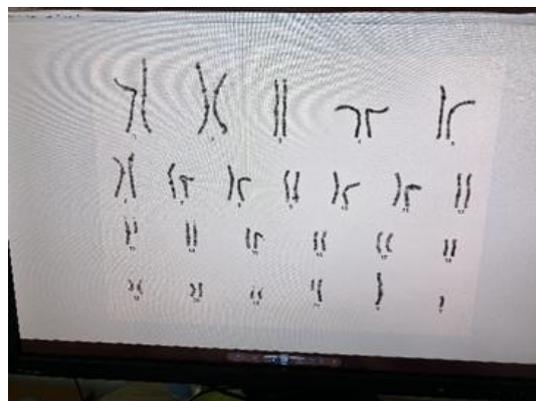
フランスは日本より人と自然の距離が近いと感じました。街の中に公園があつて、街に住む人が、散歩やピクニックをしていました。遊歩道が整備されて、自由に入ることができる森がたくさんあり、よく犬と散歩に行きました。また環境問題に対する意識が高い人が多く、スーパーマーケットに行くとオーガニックの製品のエリアがあり、多くの商品に NATURI-SCORA という地球環境にどれだけやさしいかを示した表示がありました。私のホストファミリーも環境問題を気にしていて、こまめに電気を消したり、できるだけペットボトルの水を買わないように水筒を持ち歩いていました。スーパーマーケットで野菜や果物を買うときには、できるだけ近い場所からきたもの

を選んで買っていました。ゴミはガラス、リサイクルできるものと、普通のゴミの三種類で、リサイクルゴミは回収された後、分別、洗浄されるので家では洗わずまとめて出していました。各家庭に指定の大きなゴミ箱があり、そのゴミ箱を家の外に出しておくと、毎週決まった曜日に回収業者が回収しにきていました。

環境問題について知るために原子力発電について調べようとしたのですが、できませんでした。代わりに学校でインターンシップに行ける機会があったので、それを使って biogroup という会社に行きました。環境問題とは違いますが、フランスはバイオ分野も進んでいるので、その分野の会社に行きました。ここはフランスを中心にヨーロッパで様々な医学検査を行っている会社です。そこの研究ラボの見学に行きました。このラボでは血液や細菌など様々な検査をしていました。その中で、特に興味をひかれたのは、出生前診断と遺伝子疾患の検査です。出生前診断は 13、18、21 トリソミーの検査と不妊症のカップルの原因を調べる検査を行っていました。フランスではこれらの検査をするときの法律が決まっていました。一つの検査に技術者や生物学者、カウンセラーなど多くの人に関わっていて驚きました。



染色体異常を調べる機械



取り出した染色体の写真



YES キャンプの集合写真

私は YFU という団体を使ってフランスに留学をしました。この団体は世界中にあるため、このオリエンテーションで世界中からフランスに来た人と出会いました。多

くの人が自分の国の学校で第二外国語としてフランスを学んでいて、驚きました。留学の最後に YES キャンプというものに参加しました。これは、私が留学するのにつかった YFU という団体でヨーロッパに来たすべての学生が参加することができるキャンプで、ドイツのベルリンで行われます。ここで私はフランスだけでなく、世界中からきた人と交流することができました。ここではすべてが英語で、英語圏以外の国の人も英語を流暢に話していて、英語の重要性を実感しました。

私がこの留学で学んだことは、自分や人の意見を大事にすることです。フランスにいたとき、家でも学校でも自分の意見を聞かれることが多くありました。フランスの人は、日本よりはっきりと自分の考えをいう人が多いと思います。その結果自分と考えが違ってあまり気にしないでいることが良いなと思いました。

最後に私の留学に関わったすべての人に感謝を伝えたいです。ありがとうございました。